資料３

ウェルストーク豊岡 視察まとめ

視察日時：令和７年９月５日（金）　14:00～15:45
設置場所：兵庫県豊岡市立野 6-30
選定理由：市民アンケートの結果、市民ニーズとして健康増進、子ども利用、複合施設を望む声が多く、それに合致する近隣施設として視察先に選定した。

〇位置づけ・基本理念
- 総合健康ゾーン整備計画として、医療連携を前面に出した健康サービスを提供。
- 2005 年の合併後初の大型事業。
- 運営パートナーにコナミスポーツ（高度な保健・運動指導の実施）。

〇目的
- 市民の健康増進と、医療費・介護給付費の抑制を図る総合健康ゾーンの整備。

〇場所・合意形成
- 旧公立豊岡病院跡地を市で活用してほしいという要望に対応。
- 検討委員会、座談会、説明会等で市民意見を反映。

〇事業方式（第 1 期）
- DBO（Design-Build-Operate）方式を採用（PFI より有利と判断）。
- 公募型プロポーザルで選定（価格だけでなく提案内容を重視）。
- スケジュール：2008 年 事業者決定 → 2010 年 4 月 供用開始 → 第 1 期 15 年 → 2025 年 3 月終了。

〇事業費・財源・コスト分担（第 1 期）
- 総事業費：約 44 億円。合併特例債：30 億円活用。
- 国保特会・介護特会から各 3 億円を保健指導・介護予防分として拠出。
- 民間（事業者）整備：ジム、サウナ、フィットネス等は公費負担なし。
- 光熱水費：基本分は市負担、使用量連動分は事業者負担（約 5,000 万円のうち市約 600 万円、事業者約 4,400 万円）。
- 市の年間委託料：約 8,000 万円（内訳：維持管理約 2,000 万円／介護予防・栄養・運動指導等 約 6,000 万円＝本来市事業をコナミに委託）。

〇第 2 期の方針（2025 年以降）
- PFI O（Operate）方式を採用予定。管理中心のフェーズに合わせて選択。
- 修繕費：10 年で約 1 億 6,500 万円を見込み（機器更新時期を想定して積算）。基本は枠内対応、ただし大規模工事は市が実施。

〇利用状況・会員構成

- 年間利用者：令和６年度 約 22.5 万人（1 日平均 600～700 人）。
- 年間来館頻度：平均 7～8 回／月（多頻度利用者は 1 日 3 回の例も）。
- 会員数：約 1,600 人（プールのみ約 200 人、ジムのみ約 400 人）。近年ジム利用増。
- 年代：60～70 代が 3 割超。午前は高齢者、夕方は小学生、夜は社会人が中心。
- エリア：車で 30 分圏を主ターゲット。久美浜から約 100 人の会員（旧但東・旧日高より多い）。

〇提供サービスの特徴

- 多様なプログラムで継続率を向上（施設を“貸すだけ”にしない民間の工夫）。
- 理学療法士等が在籍し、膝痛など個別課題に合わせたパーソナルプログラムが可能。
- 複合施設化により、プール停止時も他メニューで代替可能（単独プールは事業継続性が低い課題）。

〇学校連携（プール授業）

- 今年度、2 校・239 人で試験実施。豊岡市は学校プール更新を行わない方針を提示している。
- 効果：教員の負担軽減、児童の水泳習得促進で評価良好。今後拡大予定。
- 体制：インストラクター4 名で 1 クラス対応（相応にコスト高）。学校ごとに移動距離等で回数調整。（委託の内容や金額は教育委員会を通して質問すれば回答できると思う。）

〇交通・アクセス

- 送迎は実施せず。コミュニティバス「コバス」停留所あり（概ね 1 時間に 1 本）。

〇質疑応答 抜粋

- 複合施設とした理由：市の方針による判断。
- 健康福祉部事務所隣接のメリット：象徴性・分かりやすさはあるが、実務上の明確な効果は不明。
- 送迎の有無：実施していない（代替としてコバス利用）。

〇参考になる示唆

- 運営力のある民間との連携で、継続率向上と個別最適化が可能。
- 単独プールは採算性・代替性に課題。複合化が事業継続性を高める。
- 事業方式はフェーズに応じて最適化（整備期は DBO、運営期は PFI-O 等）。
- 学校水泳の外部化は教育効果と教員負担軽減の双方に寄与。移動・人員体制・コスト設計が重要。